| 問 1. |
$$|A + B| = \begin{vmatrix} 0 & 6 \\ 5 & 7 \end{vmatrix} = -30. |A - B| = \begin{vmatrix} 2 & -2 \\ 1 & 1 \end{vmatrix} = 4. したがって、 | $|A + B| \cdot |A - B| = -120.$ 一方、$$

$$\begin{vmatrix} A & B \\ B & A \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & 2 & -1 & 4 \\ 3 & 4 & 2 & 3 \\ -1 & 4 & 1 & 2 \\ 2 & 3 & 3 & 4 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} 1 & 2 & -1 & 4 \\ 3 & 4 & 2 & 3 \\ 0 & 6 & 0 & 6 \\ 2 & 3 & 3 & 4 \end{vmatrix} = 6 \begin{vmatrix} 1 & 2 & -1 & 4 \\ 3 & 4 & 2 & 3 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 2 & 3 & 3 & 4 \end{vmatrix}$$

$$= 6 \begin{vmatrix} 1 & 2 & -1 & 4 \\ 1 & 1 & -1 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 2 & 3 & 3 & 4 \end{vmatrix} = 6 \begin{vmatrix} 1 & 2 & 0 & 4 \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 2 & 3 & 5 & 4 \end{vmatrix} = 6 \cdot 5 \begin{vmatrix} 1 & 2 & 0 & 4 \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 2 & 3 & 1 & 4 \end{vmatrix}$$

$$= 30 \begin{vmatrix} 1 & 2 & 0 & 4 \\ 1 & 1 & 0 & -1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{vmatrix} = 30 \begin{vmatrix} 1 & 2 & 0 & 2 \\ 1 & 1 & 0 & -2 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{vmatrix} = 30 \begin{vmatrix} 1 & 0 & 0 & 2 \\ 1 & 0 & 0 & -2 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{vmatrix}$$

$$= 30 \begin{vmatrix} 1 & 0 & 0 & 4 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{vmatrix} = 120 \begin{vmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{vmatrix} = 120.$$

(2)

$$\begin{pmatrix} A+B & O \\ O & A-B \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} E_2 & O \\ -E_2 & E_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} A & B \\ B & A \end{pmatrix} \begin{pmatrix} E_2 & O \\ E_2 & E_2 \end{pmatrix}.$$

両辺の行列式をとると, 行列式の性質より

(左辺) =
$$|A + B| \cdot |A - B|$$
,
(右辺) = $\begin{vmatrix} E_2 & O \\ -E_2 & E_2 \end{vmatrix} \cdot \begin{vmatrix} A & B \\ B & A \end{vmatrix} \cdot \begin{vmatrix} E_2 & O \\ E_2 & E_2 \end{vmatrix} = \begin{vmatrix} A & B \\ B & A \end{vmatrix}$.

問 2.
$$A_{\sigma}(\mathbf{e}_{1}) = \mathbf{e}_{2}, A_{\sigma}(\mathbf{e}_{2}) = \mathbf{e}_{5}, A_{\sigma}(\mathbf{e}_{3}) = \mathbf{e}_{1}, A_{\sigma}(\mathbf{e}_{4}) = \mathbf{e}_{4}, A_{\sigma}(\mathbf{e}_{5}) = \mathbf{e}_{3}.$$
 した かって、 $\sigma = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 & 5 \\ 2 & 5 & 1 & 4 & 3 \end{pmatrix} = (1, 2, 5, 3) = (1, 2)(2, 5)(5, 3).$

(別解) 行基本変形により、 $P_{35}P_{25}P_{12}A_{\sigma}=E_{5}$. したがって、 $A_{\sigma}=P_{12}P_{25}P_{35}$ と書ける。 $P_{ij}=A_{(i,j)}$ であるから、 $P_{12}P_{25}P_{35}=A_{(1,2)}A_{(2,5)}A_{(3,5)}=A_{(1,2)(2,5)(5,3)}$. したがって、 $\sigma=(1,2)(2,5)(5,3)$ を得る。

(別解についての注意) 結論のところで「 $A_{\sigma}A_{\tau} = A_{\sigma\circ\tau}$ 」および「 $A_{\sigma} = A_{\tau}$ ならば $\sigma = \tau$ 」という事実を使った.これは,置換全体の集合と置換行列全体のなす集合が $\sigma \mapsto A_{\sigma}$ によって 1 対 1 に対応し,さらにこの対応が積の構造を保つことによる.このように,実際には深い議論が必要である(キーワード:群,同型写像).

問 3.

$$D(a,b,c) := \det \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ a & b & c \\ a^2 & b^2 & c^2 \end{pmatrix} = (b-a)(c-a)(c-b).$$

したがって.

$$x = \frac{D(2, 1, 2)}{D(3, 1, 2)} = 0, \ y = \frac{D(3, 2, 2)}{D(3, 1, 2)} = 0, \ z = \frac{D(3, 1, 2)}{D(3, 1, 2)} = 1.$$

問 4.

- (1) 正しい. AB は正則であるから、 $\det(AB) \neq 0$ である.一般的に $\det(AB) = \det(A) \cdot \det(B)$ が成り立つので、 $\det(AB) \neq 0$ は「 $\det(A) \neq 0$ かつ $\det(B) \neq 0$ 」を意味する.つまり、A も B も正則である.
- (2) 正しくない. $\det(-A) = \det(A(-E_n)) = \det(A) \cdot \det(-E_n)$. $\det(-E_n)$ は n が奇数か偶数かによって -1, 1 の値をとる.
- (3) 正しい.

$$0$$
 は A の固有値 \iff A の固有多項式 $\Phi_A(x)$ は $\Phi_A(0) = 0$ を満たす \iff $\Phi_A(0) = \det(-A) = 0$ \iff $\det(A) = 0$, つまり A は正則ではない.

(4) 正しい.

A の成分がすべて整数のとき、 $\det(A)$ も整数となる(なぜなら、行列式は行列の成分の積和であるから).

今, $\lceil A^{-1}$ の成分がすべて整数」であったとしよう.このとき, $\det(A^{-1})$ も同様に整数となる.しかし, $\det(A)\det(A^{-1})=1$ であるから,これを満たす整数は ± 1 だけである.

逆に、 $\det(A) = \pm 1$ としよう。余因子行列の性質から、 $A^{-1} = \frac{1}{\det(A)}\widetilde{A} = \pm \widetilde{A}$. 余因子行列の各成分はAの小行列の行列式なので、これもAの成分の積和であり、整数である。